

## 2020年度(令和2年度)生産額見通し(当初・改訂)対照表

(単位:百万円、%)

業 種 分 類	当 初 見 通 し			改 訂 見 通 し			当 初 見 通 し と の 差 異 (金額、%)		
	2019年度 (令和元年度) 実績	2020年度 (令和2年度) 見通し	2020/2019 (X)	2019年度 (令和元年度) 実績	2020年度 (令和2年度) 見通し	2020/2019 (Y)	2019年度 (令和元年度) 実績	2020年度 (令和2年度) 見通し	(Y-X)
機 械 総 合 計	72,944,705	65,370,351	89.6	72,748,041	63,244,101	86.9	▲ 196,664	▲ 2,126,250	▲ 2.7
機 械 計 (除、金属製品、鍛造品)	67,415,888	60,528,145	89.8	67,220,808	58,499,880	87.0	▲ 195,080	▲ 2,028,265	▲ 2.8
一 般 機 械	15,142,241	14,183,345	93.7	15,173,302	13,557,988	89.4	+ 31,061	▲ 625,357	▲ 4.3
電 気 機 械	7,678,619	7,668,576	99.9	7,635,991	7,392,621	96.8	▲ 42,628	▲ 275,955	▲ 3.1
情 報 通 信 機 械	3,008,398	3,126,231	103.9	3,080,315	2,784,389	90.4	+ 71,917	▲ 341,842	▲ 13.5
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス	6,619,265	6,758,598	102.1	6,343,010	6,200,420	97.8	▲ 276,255	▲ 558,178	▲ 4.3
輸 送 機 械	33,518,856	27,429,379	81.8	33,536,920	27,278,075	81.3	+ 18,064	▲ 151,304	▲ 0.5
精 密 機 械	1,448,509	1,362,016	94.0	1,451,270	1,286,387	88.6	+ 2,761	▲ 75,629	▲ 5.4
金 属 製 品	2,910,901	2,699,904	92.8	2,909,322	2,639,291	90.7	▲ 1,579	▲ 60,613	▲ 2.1
鍛 造 品	2,617,916	2,142,302	81.8	2,617,911	2,104,930	80.4	▲ 5	▲ 37,372	▲ 1.4

(注) 当初見通しとの差異要因

当初見通しでは2020年度の機械総合計は前年度比10.4%減であったが、今回の改訂見通しでは13.1%減となり、また、金額ベースでは2兆1263億円弱の下方修正となった。

当初見通しでは前年度比で情報通信機械と電子部品・デバイスが増加を見込んだものの、改訂見通しではいずれの業種も減少の見通しに転じた。

また、改訂見通しでは、全ての業種が当初見通しから下方修正となった。その差異一覧は上のとおりであるが、差異要因について補足すると次のとおり。

- ① 今回の下方修正の最大の要因は一般機械の6254億円弱の下方修正で、改訂見通しでは10.6%減(当初見通し6.3%減、以下同様)となった。  
土木建設機械の15.1%減(2.5%減)、金属工作機械の33.4%減(23.1%減)、冷凍機・同応用装置の9.3%減(4.1%減)等、生産額の大きい品目が下方修正の大きな要因となった。
- ② 次に電子部品・デバイスの5582億円弱の下方修正であり、改訂見通しでは2.2%減(当初見通し2.1%増、以下同様)となった。  
電子部品は改訂見通しでは0.5%増(6.3%増)と増加率が低下し、電子デバイスは4.2%減(0.7%減)と減少率が拡大したことが、下方修正の要因となった。
- ③ 他の業種の動向は以下の通りである。  
情報通信機械は3418億円余の下方修正であり、改訂見通しでは9.6%減(当初見通し3.9%増)と全業種との比較で当初見通しとの率の差が最も大きくなった。  
輸送機械は、改訂見通しでは18.7%減(当初見通し18.2%減、以下同様)と率に大きな変化はないものの、鋼船が14.2%減(5.1%減)、航空機は31.9%減(13.9%減)と減少幅が拡大した品目がある。